

日本語クラスでe-learningシステム(WebClass)を使ってみて

永井智香子

1. はじめに

最近、e-learningという言葉をよく目にする。e-learningシステムを使った学習の利点は何といても、学習者がアクセスして学習した状況を教員が把握でき、学習者にフィードバックをすることが可能なことであると思う。

日本語教育においてもe-learningを使ったさまざまな試みが行われている。たとえば、来日前の留学生に対する事前教育にe-learningを使っている例や¹⁾、教室の授業にe-learningを組み合わせている例などがある²⁾。

少し時間をさかのぼるが、筆者は中溝(2005)による教育用e-learningシステムであるWebCTの日本語中級作文クラスへの導入に興味を持った³⁾。中溝(2005)は締め切りをもうけて課題を提出させたり、自主学習をさせたり、学習者が教材やクラスメートが書いた作文を自由に読んだり、ダウンロードしたりできるようにするのにWebCTを使ったのである。

日本語の中級作文クラスを担当することが多い筆者はこの実践に興味を持ち、e-learningシステムを使ってみたいと思った。当時、長崎大学にはWebCTが導入されており、すぐに使い始めたのだが、学外からのアクセスが非常に困難であったこと、学習者一人一人にWebCT用のIDとパスワードが必要なこと、さらに、個人的なことであるが、パソコンに弱い筆者にとってWebCTの操作は非常に複雑であったことなどの理由により、わずか一学期間で使うのをやめてしまった。

しばらくして、WebClassというe-learningシステムが導入されたことを知り、もう一度e-learningシステムを使ってみたいと思うようになった。筆者が初めて中級作文クラスでWebClassを使ったのは平成21年度の前期であった。平成21年度後期からは作文クラスに加えて、聴解のクラスでもWebClassを使っている。補助的に使っているだけであり、使いこなしているというレベルではないが、非常に便利なシステムだと思っている。本稿は、実際に日本語クラ

スでどのようにWebClassを使い、WebClassを使ってみてどうであったかということを実践記録として簡単にまとめたものである。

2. WebClassについて

WebClassというe-learningシステムはWordやExcelなどの資料をそのまま活用でき、テストの作成やレポート課題の提出を容易にする学校向けのe-learningシステムで、日本国内で開発されているので、日本国内での授業に非常に適合したシステムである⁴⁾。

長崎大学では平成19年3月から情報メディア基盤センター・情報メディア部門主導で試験公開されている。平成19年度のWebClassを利用している授業コース数は長崎大学全体で122コースであったのが、2年後の平成21年度には388コースと3倍以上に伸びている⁵⁾。語学の授業での使用は多くないということである。

3. どのようにWebclassを使っているのか

筆者は作文クラスと聴解クラスでWebClassを使っている。具体的には中級前半レベルの「中級Ⅰ作文」、中級後半レベルの「中級Ⅱ作文」、上級前半レベルの「上級Ⅰ聴解」、上級後半レベルの「上級Ⅱ聴解」、これら4つのクラスで使っている。ここでは作文クラスと聴解クラスにわけて具体的にどのようにWebClassを使っているのか紹介したい。

3-1 作文クラスでのWebClassの利用

「中級Ⅰ作文」と「中級Ⅱ作文」、どちらの作文クラスでも使うWebClassの機能は同じである。

WebClassには「ユニット」「会議室」「資料」「テスト／アンケート」の4つのコンテンツがあり、これらに加えて「管理者からのお知らせ」欄がある。筆者が作文クラスで使っているコンテンツは「資料」と「テスト／アンケート」で、「管理者からのお知らせ」も使うことがある。

まず、「資料」であるが、学習者が書いた作文をアップロードして、コースに登録されている学習者のだれもが読めるようにするのに使っている。管理者である筆者にはだれがどれぐらいの時間WebClassにアクセスしたかわかるようになっている。さらに、筆者は教科書のほかに、たまに授業でハンドア

ウトを使うことがある。欠席者がいた場合、必要に応じて「資料」のところ
に授業で使用したハンドアウトをアップロードしておく。

次に「テスト／アンケート」であるが、宿題の提出と自主練習教材に使っ
ている。宿題の提出は、毎週の授業が終わると、筆者は管理者用のページから
WebClassに入って、宿題のタイトルと宿題についての説明を入力し、締め
切りを設定し、「レポート提出」という問題スタイルを選んでおく。学習者は
Wordで宿題を作成し、WebClassを通じて提出する。締め切りが過ぎると学習
者は宿題が提出できなくなる。

WebClassを通じて提出された宿題をチェックするときは管理者用のページ
の「成績管理」というところを使う。「表示」をクリックすると宿題提出者の
一覧が表示され、学習者が書いたWordのファイルをダウンロードができる。
「未提出者を表示」というところをクリックすると宿題を提出していない者
の一覧が表示される。

自主練習教材についてであるが、今までにWebClassの機能を使って作った
のは「こと」と「の」の練習」「助詞「で」と「に」の練習」「助詞「は」と
「が」の練習」「自動詞と他動詞の問題」の4種類である。学期の初めからこ
れら4種類の自主練習問題をすべてアップしておくわけではない。学習者が
書いた作文にこれら4種類の自主練習問題に関連する間違いが目立った場合
にアップし、練習しておくようにと学習者に伝えることにしている。自主練
習問題には合格点も設定でき、学習者は合格点がとれるまで何度も繰り返す
ことができる。また、一つ一つの問題それぞれに解説を加えることもできる。
選択式の問題だけでなく、記述式の問題等さまざまな問題形式で自主練習
教材を作成することができるが、筆者は学習者の負担があまり大きくなりな
いほうがよいと考え、選択式の問題を作っている。これも管理者用の画面か
らどの学習者がどれぐらいの時間アクセスしていたかを見ることができる。

最後に「管理者からのお知らせ」欄であるが、これは文字通り、テストの
予告をしたり、作文をアップしたから読んでおくようにというような「お知
らせ」に使っている。

3-2 聴解クラスでのWebClassの利用

「上級Ⅰ聴解」クラスと「上級Ⅱ聴解」どちらの聴解クラスでも使うWebClass
の機能は同じである。作文クラスと同様、使っているコンテンツは「資料」

と「テスト／アンケート」と、「管理者からのお知らせ」である。

筆者は「上級Ⅰ聴解」クラスと「上級Ⅱ聴解」、どちらのクラスでもテレビのドキュメンタリー番組を10分程度に編集したものを教材として使っている。毎回の授業では視聴したビデオの SCRIPT を学習者に配布する。筆者はWebClassの「資料」というコンテンツを使って、欠席者がいた場合はダウンロードできるように SCRIPT をアップロードしておく。

毎回の宿題の提出には作文クラス同様、「テスト／アンケート」というコンテンツを使う。その使い方は作文クラスと全く同じで管理者用のページからWebClassに入って、宿題のタイトルと宿題についての説明を入力し、締め切りを設定し、「レポート提出」という問題スタイルを選んでおく。学習者はWordで宿題を作成し、WebClassを通じて提出する。

「管理者からのお知らせ」欄も作文クラスと同様、試験の予告などに使っている。

4. 学習者へのアンケートから

平成21年度前期が終わったあとと後期が終わったあと、作文クラスで、学習者にWebClassを使ってどうであったか簡単な記述式のアンケートを行った。ここではその結果を紹介したい。学習者が書いたものをそのまま紹介しているが、文法の間違ひは少し添削してある。

学習者の声

- ・よかったです。初めは使い方が難しかったです、何回かあとで非常に使いやすかったです。
- ・WebClassはすごく便利だと思います。WebClassにある練習はいい勉強になりました。
- ・WebClassはとても役に立ったと思います。提出は簡単にできて、練習もありました。
- ・本当に便利です。
- ・便利で使いやすいです。
- ・締め切りに間に合わなかったことが多かったが、結構便利だったと思います。締め切りがはっきりしていて、出した宿題がなくなることもないのでよいと思う。

- ・少し使いにくいです。
- ・私はWebClassをよく活用していませんでした。よく活用すればとてもいいと思います。他の人が書いた作文も読めるだけではなく、文法に関する練習問題もあるので、とてもいい勉強方法だと思います。
- ・今後も使い続けるのはいいと思います。
- ・WebClassはいいです。日本語の勉強に役に立ちます。でも、助詞の問題に解説がほしかった。
- ・もちろん便利だと思います。しかし、締め切りを守るのはちょっと無理です。私はよく締め切りを忘れました。
- ・私はコンピュータを使用するのが苦手ですから、WebClassよりメールで宿題を出すほうが便利だと思います。しかし、WebClassの使い方はそんなに難しくないとはいえません。

以上のようにアンケートの結果はそのほとんどが使ってよかったというものであった。宿題の提出に便利であるというだけでなく、自主練習問題が役に立ったという声も多いことが分かる。

5. 日本語の授業にWebClassを使ってみて

WebClassを使ってみての筆者の感想は、全体的には非常に便利で教員にとっても学習者にとってもよいものではないかということである。しかし、筆者にとって少し使いにくいと感じる点もある。ここでは個人的に感じる利点と少し使いにくいと感じる点に分けてまとめてみた。

5-1 WebClassを使っていてよいと感じること

- ・学習者のアクセス状況が管理者にわかること
どの学習者がどれぐらいの時間、どこにアクセスしたかがわかることによって、どのような自主練習問題が必要とされているのか、また、どのようなものをアップしておくかよいのかがわかる。
- ・期限をもうけて宿題を提出させることができること
WebClassを使い始める前、筆者は毎学期、2つあるいは3つの異なる日本語クラスの宿題をWordで書いたものを筆者のメールアドレスに添付で送るよう指示していた。その際、どのクラスの学生がすぐにわからなかつ

たり、学生が送ってきたものをジャンクメールだと思い、捨ててしまったり、また、うっかり見落とししていたりすることが時々あった。さらに、締め切りを守らない者も多かった。WebClassを使い始めてからはクラス別にWordで書かれた宿題がダウンロードできるので、前述のような混乱がなくなった。さらに、締め切りを守らないものが減り、宿題提出をしつかりと管理できるようになった。

- ・自主練習問題をアップできること

90分ひとコマの授業時間内にできることは限られている。そこで、その授業にとって非常に大切であるが、授業中に時間をとってできない日本語の基礎文法練習などを自主練習問題として簡単に作成することができるのは非常に便利である。自主練習問題を作るのも簡単である。さらに、自主練習問題はリンクをはることができるので、一度作ると学期が変わっても使い続けることができることも非常によい。

- ・ハンドアウトなどがアップできること

学生全員に読んでほしいと思うファイルが簡単にアップできる。具体的には学生が書いた作文であったり、筆者が授業で使用したハンドアウトであったりするが、それらのものが簡単にアップロードできることは非常に便利である。授業に関する「お知らせ」も同様である。長崎大学にはキャンパスが3つあり、比較的遠いキャンパスの学生がわざわざ配布プリントを取りに来たり、試験について、いちいちメールや電話で教員に問い合わせる必要もない。また授業中に口述で伝えたことを学生はWebClass上で確認できるのもよい点である。

- ・アクセスが簡単であること

WebClassの忘れてはいけない利点はやはり、長崎大学が教職員と学生に発行しているIDとパスワードを使って簡単に入っていくことができることだと思う。筆者がWebClassに入るのに使うIDとパスワードは普段大学のメールで使用しているものである。WebClassは学内、学外に関係なくインターネットにつながったコンピュータであれば、スムーズにアクセスできる。筆者は自宅のコンピュータを使って、WebClassの設定を

したり、学生が提出した宿題をダウンロードすることもよくある。

5-2 WebClassを使って使いにくいと感じる点

・学生の登録に手間取る

筆者が、WebClassを使う場合、最も手間取るのが学生の登録である。全員の登録を終えるまでコースで使い始めることができない。最初の授業のときにWebClassというe-learningシステムを使うので、情報メディア基盤センターに行って大学が発行するIDとパスワードをもらい、できるだけ早く筆者に伝えるようにとプリントを使って指示をする。学生のIDが手元にくるとすぐに筆者は一人ずつコースに登録するのだが、なかなか学生はIDを筆者に伝えてこないのである。学習者が留学生であるということでもうまく通じない場合もあるのかもしれない。平成21年度は登録前に学生が一度、長崎大学のWebClassのページに入らないと管理者が学生をコースに登録ができないという仕組みになっていて、なかなかスムーズにいかなかった。平成22年度はこの点は改善されているが、まだ手間取っている。全員の登録を終えるのに、長い場合は3週間以上かかることもある。

6. おわりに

WebClassを使い始めて間もないころ、わからないことが多く、担当者に問い合わせたことが何度かあった。あるとき、「WebClassを学生を管理するためにだけ使うのはよくないですよ」と言われたことがあった。WebClassを通じて、締め切りを設けて宿題を提出させるという行為は「教師側の利点のためにだけ学生を管理している」のではないだろうかと考えさせられた。そのときから、WebClassを使うということは学生にとってもできるだけメリットのあるものでなければならないと強く考えるようになった。そこで、より多くの自主練習問題を作ったりしたのだが、一つ一つの問題にはまだ解説がほとんどついていないというのが現状である。できるだけ早く解説をつけて自主練習問題をより充実させる必要がある。もちろん、さらに多くの種類の自主練習問題を作りたいとも考えている。現在、少し手間取っている学生のコースへの登録であるが、人数の少ないクラスであれば、最初の授業のときに留学生センターのコンピュータ室を使って実際にページを開いて説明することなども可能である。このように自主練習問題の充実と学生のコースへの登録

をいかにスムーズに行うようにするかが当面の課題である。

日本語クラスでWebClassを使ってできることはまだまだあると思う。そのためにはWebClassについてよく知る必要がある。パソコンに弱い筆者ではあるが、WebClassの有効利用を目指して試行錯誤を続けたいと思っている。

注

- 1) 外国語教育メディア学会（LET）第39回（2009年度）九州・沖縄支部研究大会（於：長崎県立大学シーボルト校）の中溝朋子（山口大学留学生センター）による口頭発表レジュメ「未習者のための渡日前日本語e-learning教材の開発と今後の課題」参照。
- 2) たとえば、別府大学や東京外国語大学でのe-learningを使った取り組みがある。『2010年度日本語教育学会予稿集』pp12参照。
- 3) 中溝朋子（2005）「WebCTを利用した日本語中級コース」『大分大学留学生センター紀要』第2号pp65－pp77
- 4) WebClassの公式サイト（<http://www.webclass.jp/>）を参照した。2010年5月9日アクセス
- 5) 平成19年度と平成20年度のコース数はNAOSITEの情報メディア基盤センターレポート（<http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/handle/10069/22468>）から抜粋した。21年度のコース数は情報メディア基盤センターレポート2010に掲載される予定である。